

れば、その頻度は少ないのです。

一方、人工血管内シャントはご自身の血管が細くても作ることが可能です。最近では、透析を開始する年齢が高くなり、シャントを作る段階ですでに、血管が細い方が多く見られますので、こちらのシャントをお持ちの方も多いことと思います。人工血管の場合には、狭窄や閉塞、感染など問題も多いのですが、最近ではカテーテル治療が発展していますのでうまく管理していけば、十分に長持ちさせることが可能となってきています。

### 3. シャントを長持ちさせるために

せっかく痛い思いをして作ったシャントを少しでも長持ちさせたいと思うのは当然です。そのために皆さんが出来ることは“見て”“聞いて”“触って”状態を観察していただくことです。人間が年をとると同じように、血管も老化します。したがって誰にでもトラブルが起きる可能性は高くなっていくのです。異常を早期に発見すれば、狭窄・閉塞、感染、出血などのトラブルを最小限に抑えるとともに、シャントを長持ちさせることにつながります。

#### <狭窄・閉塞が疑われる場合>

- ・ 血流の流れる振動（スリル）が弱い、触れない
- ・ シャント音が弱い、聞こえない
- ・ 軽い痛みや血管が固いなど、  
いつもと違う感じがする
- ・ シャントの腕が冷たく感じる

#### <感染が疑われる場合>

- ・ 皮膚が赤くはれている
- ・ 痛みを感じる
- ・ 一方、人工血管内シャントはご自身の血管が患部に熱を感じる
- ・ 膿が出てきた
- ・ 熱が出る

こういったことを発見したら、病院に連絡して、受診するようにしましょう。

### 4. トラブルについて

シャントの主なトラブルには、以下の様なものがあります。

<狭窄・閉塞>これは最も多いトラブルです。経験されている方も多いことと思います。最近ではカテーテル治療が発達していて、うまく治療することが可能となってきています。早期に異常を発見すれば、カテーテル治療もうまくいく可能性が高まります。

